



風

No5~金風号~
H24.11.30
あさひ保育園

少し前にあります。我家の次女が家庭科の宿題で夕食作りをする事になりました。メニューは、豚肉と白菜のミルク煮、ほうとう、草のゴマ和え、あけの味噌汁、ご飯、買物に行き、準備万端、さあ始まります。

ほうとうの草は、お湯で沸かしてから、茶うすから入れます。その前に米は研いどかんを、あけのお湯につけて油ぬき、いりこは暫く水につけておいてから火にかけてやんよ。汗騰り過ぎたら、苦く出るけんね。

私があまりに口を出すと、娘が一言、「ママ、黙って。私一人やりますけん。」もう一歩ゆれ、仕方なく居間で洗濯物を干すから、待つこと一時間。

でもまだ、あー疲れた、娘の声に台所へ行てみると、悪戦苦闘した後……。一人前のお皿に盛り、ラニカニマトの上には並べ記念の写真とパテリ。その後皆でいっしょに食べた、味はというところ……。これが我が家の味。家族みんな、おいしい、おいしいと言われ大満足。娘も一人一人大丈夫かと心配してたが、娘の成長を感じられる素敵な宿題だった。

園長 古賀周子



子どもの笑顔が輝く瞬間



背のびする
 じぶん
 じぶん
 じぶん
 鼻を下する
 じぶん
 じぶん
 じぶん
 どのちも
 やだけと
 どのちも
 じぶんも
 みつと

歓迎会
 WELCOME MEETING
 11月20日(土) 10:00～12:00

11/26 ~ 作品店 **いろいろなこといっぱい**



あつたね



11/16 魚をさばく
さんまは(ぞうぐみ)
炭で火売って
木の葉で焼く



11/30 お店屋さんごっこ
"勤労感謝の日"にちなんで



24日(土)
収穫祭は雨。11/27 みんなでジャガイモ掘り



いらしゃい!



このジャガイモ
お店屋さんでの
園長先生の
"揚げたてポテト"
になりました。
大盛況



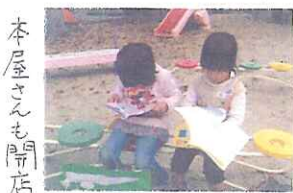
花屋さん



お弁当屋さん



八百屋さん



本屋さんも開店



身長は5歳以下が安心



首の近くに長いひもを使わない
体の後ろにひもをつけない

最近ではリボンやチェーンなどを使ったおしゃれな子供服が売られています。しかし、装飾のひもなどが何かに引っかかり、けがをさせる危険性もあります。

欧州連合（EU）では、子供服の安全基準が定められています。日本でも全日本婦人子供服工業組合連合会などの業界団体が安全対策のガイドラインを作っています。

安全性を考えて

子ども服選び

- ① 首が締まらないように、首の近くに長いひもを使わない。特に7歳以下はフードにひもはつけない。
- ② 自転車や遊具に引っかかないように、ウエスト回りや、上着・ズボンの裾に長すぎるひもは使わない。
- ③ 車のドアにはさまらないように、体の後ろの部分にひもをつけない。
- ④ 飾りリボンは結び目を固定して外れないようにする

子どもに安らかな毎日を

できないことに目をつむる



連載の最後に、一番お伝えしたいことを書きたいと思います。それは、子どもが毎日、安らかな気持ちで過ごせるようにしてあげてほしいということです。これが子育てで最も大切であり、私の講演でも常に強調しています。

親は、子どもに対していろいろな願いを持っています。勉強ができるようになってほしい、積極的になってほしい、マイペースな性格を直してほしい、片付けができるようにさせたい...

でも、親の願いが強いと、子どもはとても大変です。なぜなら、どの子にも持って生まれたものがあつたから、何もそんなに簡単にできるものではないからです。

もちろん子どもができるように、親が手助けをするのは大切です。だからといって、親が望む結果が必ず出るとは限りません。

親が目をつむってあげることが大切だ、と思います。目をつむれない親は結局、子どもを傷つけることになりまふ。目をつむれる親なら、子どもは毎日、安らかな気持ちで生活できます。

実は、子ども時代の一日一日を安らかな精神状態で過ごせるのは、何よりも大切なことです。その

中で初めて「自分は親に愛されている。自分はこの家についていいんだ」と感じられるからです。

反対に、日々の生活に安らぎがなく緊張した状態で過ごすことが多いと、親の愛情に疑問を持ったり、自分の存在に自信を持てなくなったりします。さらには、漠然とした不安感を引きずるようになる可能性もあります。

いくら立派な子になつても、これらの大切な部分が台無しになつてしまつては、元も子もありません。おたくのお子さんはどう感じているでしょうか？ 一度、お子さんの立場で考えてみてくださ



絵本 あきやまただしのへんしんシリーズ



急病集 後記

秋から冬への装いを見せる園庭のケヤキの木の葉に埋もれてはじける笑顔のなんと暗れやかなことか。遠くから眺めると大きな木に優しく包まれて遊ぶ子ども達の風景に穏やかになります。そんなケヤキの木は、時折いたずらも.....

園長先生の背中に

黄色く染まった木の葉一枚 かわり -北澤- Kita

お迎えに来られたあるお母さんが、開口一番に、『卵をお湯から入れてゆで様とするからびっくり!!』

11月は、いろんな所でいろんな催しが開かれます。その日は、バザーの準備を若いお母さん達と一緒にして、お料理にも料理に関して知らなすぎる事に驚いたこと。「お湯で米をとぐんです。それも水が透明になる迄」と嘆き、「みじん切り・いちぢう切り」と言っても、どう切るのか知らないんです。」...とも。そして、帰り際に

「私は、娘たちにはしっかり家事を教えてお家に出します!」と

きっぱり言い切って帰って行かれました...頼もしい。教えるとは言われたものの、ただただお母さんがお手本になるんだろうなあと思います。

なんと素晴らしい。 -今月はお母さんのつがやき つがやき つがやき